

総合計画の策定とまちづくり

地域づくり団体全国協議会 会長
法政大学 名誉教授

岡崎 昌之

1. 「総合計画の策定」とは

(1) まちづくりの作戦タイム

- ▶ 計画“書”づくりではない！
- ▶ 策定プロセスの重要性
 - ▶ 多様な立場からの参画 ～若者、女性 etc.

(2) 各地区、各分野の将来の共有

- ▶ 課題、解決方法の共有
- ▶ 地域の将来は、地域の過去の上に

(3) 鳥の目、虫の目

- ▶ **「鵬徒南冥、水撃三千里、扶揺九萬里」
「恵蛄不知春秋」「朝菌不知晦朔」 (荘子)**
- ▶ **コミュニティ、ローカル、ナショナル、グローバル**
- ▶ **集落、地域社会、コミュニティからの視点**

(4) 横の目

- ▶ **課題横断的視点の重要さ**

2. 人口減少社会 への対応

⇒ 地方創生施策の原点

(1) 全体的人口減少と人口構成

① 人口減少 1億2,709万人 (2015) → 8.808万人 (2065)

② 生産年齢人口の減少 7.728万人（2015）（60.8%）→ 4.529万人（2065）（51.4%）

※全人口割合 1995:70% 2015:60% 2065:50%

③ 年少人口の減少 1,595万人（2015）（12.5%） → 898万人（2065）（10.2%）

④ 老年人口の増加 3.387万人（2015）（26.6%） → 3.381万人（2065）（38.4%）

「日本の将来推計人口」 (国立社会保障・人口問題研究所 2017.4.10)

(2) 集落・地域社会視点の重要性と深刻さ

- ▶ 都道府県人口への関心？
- ▶ 市町村視点の落とし穴
- ▶ 集落(コミュニティ)視点の重要性と深刻さ

(3) 人口減少社会は不幸か

① 人口増時代は幸せ？

- ▶ 次三男問題
- ▶ 競争時代
- ▶ 住宅難
- ▶ 交通混雑

② 人口減少社会の利点

- ▶ 配分資源の増加
- ▶ 一人ひとりの尊重

③ 人口減少社会への挑戦

➤ 3つの方策

⇒ 大前提：人口維持、人口増への取り組み

A. 「定住人口」発想からの脱却

⇒ 「交流人」「応援人」（関心人口）

B. 「人口構成」への着目

C. 「活躍人口」の拡大

3. 新しい地域づくり課題

(1) 課題解決型地域づくり

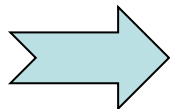
～ 地域づくりの変容

～ 地域社会に内在する課題群

- ▶ 医療、福祉、教育、子育て、安全、雇用 ……
- ▶ 身近な近隣で多発する課題
- ▶ 早急に迫られる課題解決
- ▶ 社会“関係”資本（ソーシャル・キャピタル）の蓄積
- ▶ 地域社会市場 community economy の構築

(2) 将来社会形成型地域づくり

- ▶ 景観形成（美しいまち）
- ▶ 社会“関係”資本 social capital（心かようまち）
- ▶ 生活の技 skill、豊かな食



誇りある暮らしぶり

地域ブランドの形成

交流・ツーリズム

新しい“公” “共” “私”の模索

